



- 2 エッセイ／“おかね”を語る
現金主義者の憂鬱 小説家 恩田 陸



- 4 インタビュー／扉を開く
假屋崎省吾 華道家
花を咲かせるポジティブ思考

- 9 地域の底力——和歌山県有田郡有田川町
住民一人ひとりの思いが実を結ぶ和歌山県有田川町



- 16 対談／守・破・創
山形浩生 作家・翻訳者・コンサルタント
若田部昌澄 日本銀行副総裁
仕事と遊びの曖昧な境界線から新たな可能性が広がっていく

- 20 日本銀行のレポートから (1)
「経済・物価情勢の展望」(展望レポート) — 2022年7月—

- 22 FOCUS → BOJ 41 日本銀行文書局 福岡支店移転プロジェクト
関係者の協力が築いた福岡支店新営業所

- 27 日本銀行のレポートから (2)
「地域経済報告」(さくらレポート) — 2022年7月—
別冊「地域の企業における気候変動を巡る取り組みと課題」 — 2022年6月—

- 33 トピックス
那覇支店開設50周年記念展示を開催中 ほか



- 35 AIR MAIL from Washington, D.C.
プラントベースで健康と環境保護を追求するワシントンの人々
—進化を続けるプラントベースフード市場

※取材は感染対策を徹底して実施しています。
本誌は9月2日(金)までの情報をもとに掲載しています。

表紙のことば

表紙の店舗は、日本銀行福島出張所です。明治三十二年(一八九九)七月十五日、東北地方では初、全国では本店を除くと七番目の日本銀行店舗として開設されました。この二階建て・土蔵造りの店舗は、福島一の生糸問屋「万国屋」から購入したものでした。

全国的にみても早い時期にこの出張所が開設されたのは、福島が当時の重要輸出品であった生糸や米の有数の集散地であり、東北の金融の中心であったためです。

出張所開設当日は「一〇五万円の現金が運ばれてくる」ということで、駅前通りには緊張感がみなぎっていたそうです。そして、赤い旗を立てた十数台の馬車に積まれた現金箱が、興奮した人垣の中を通り、物々しい警戒のうちに出張所へ運び込まれたといえます。

東北経済の要として繁忙を極めた福島出張所は、明治四十四年(一九一)に、支店に昇格します。

支店昇格を契機に、日本銀行本店や東京駅の設計を手掛けた辰野金吾博士とその高弟・長野宇平治が二代目店舗を設計し、大正二年(一九一三)に完成しました。福島支店は、現在では三代目の店舗で営業しており、これからも地域の歩みを見守り続けていきます。



表紙・画 北村公司